

総合理工学インスティテュート

I 2022年度 大学評価委員会の評価結果への対応

<p><b>【2022年度大学評価結果総評】（参考）</b></p> <p>IISTは2016年9月にSGU支援を受けて設立され、2023年度でSGU支援が終了するが、これまでの短い期間の間に、海外から多くの学生を受け入れ、研究成果発表を活発に行ない、修了生を輩出してきたことは高く評価できる。IISTの学生は、同じ研究科の日本人学生にとっても良い刺激になっており、法政大学のグローバル化に大きく寄与していることは高く評価できる。修士課程から博士課程への進学率は高く、博士受け入れ数5名のうち3名がIISTの内部進学となっていることから、その向学心の高さが窺える。修了生数は多くないものの、2021年度から始まったIIST卒業生と在校生の意見交換会は、キャリアを考える上で学生にとって貴重な機会となるため、持続的に発展することが期待される。世界で活躍するグローバルな人材育成のためには、このような交流会をより充実させることが望ましい。キャリアセンターとの連携による組織的なキャリア支援はまだ検討の段階にあるものの今後も継続していく必要がある。入学する学生の確保については、IISTをどれだけ海外に向けて紹介してきたかにかかっているが、わかりにくいと評価されていたIISTのWebページがリニューアルされたことにより、この問題はある程度改善されたものと思われる。今後はWebページ上、学生生活、研究活動について英語の動画コンテンツを充実させていくことが望まれる。</p>
<p><b>【2022年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】</b></p> <p>修了生のキャリア追跡とIIST-Alumniの組織化に対しては、2021年度より実施している在校生に対する進路希望アンケートとIIST卒業生と在校生の意見交換交流会をさらに充実させ、キャリアセンターとの連携による組織的なキャリア支援の仕組みの改善を推進する。IISTのWebページの継続的リニューアルや再開された海外提携（候補）校訪問により、受験する学生の質・量の改善を図る。</p>

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1①授与する学位ごとに、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を記入してください。	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。	
1.1②上記のディプロマ・ポリシーには、授与する学位において学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果が示されていますか。	はい
1.1③上記のディプロマ・ポリシーを公表していますか。	はい

**【根拠資料】**

情報科学研究科・理工学研究科で公表された学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

1.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

1.2①授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を記入してください。	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。	
1.2②上記のカリキュラム・ポリシーには、授与する学位において学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針が示されていますか。	はい
1.2③上記のカリキュラム・ポリシーを公表していますか。	はい

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

<b>【根拠資料】</b>	
情報科学研究科・理工学研究科で公表された教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）参照。	

1.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

1.3①「法政大学大学院学則」第15条（「単位」）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
---	----

1.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

1.4①学生の履修指導を適切に行っていますか。	はい
1.4②シラバスの内容の適切性と授業内容とシラバスの整合性を確保していますか。	はい
1.4③研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい
1.4④研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい

<b>【根拠資料】</b>	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。 IISTを構成する教員の所属する理工学研究科では専攻主任会議で、情報科学研究科においては質保証委員会を中心に、それぞれの研究科の措置の実行の検証が定期的に行われている。	

1.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

1.5①「法政大学大学院学則」第20条の2（入学前既修得単位の認定）に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
1.5②「法政大学大学院学則」第22条（修了要件）、第26条（修了要件）に基づき、修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
1.5③成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	はい
1.5④学位論文審査基準を定め、文章等によって予め学生に明示し公表していますか。	はい

<b>【根拠資料】</b>	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。 IISTを構成する教員の所属する理工学研究科では専攻主任会議で、情報科学研究科においては質保証委員会を中心に、それぞれの研究科の措置の実行の検証が定期的に行われている。	

1.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

1.6①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定をしていますか。	はい
1.6②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標に基づき学生の学習成果を把握していますか。	はい
1.6③学習成果を可視化していますか。	はい

<b>【根拠資料】</b>	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

IIST を構成する教員の所属する理工学研究科では専攻主任会議で、情報科学研究科においては質保証委員会を中心に、それぞれの研究科の措置の実行の検証が定期的に行われている。

1.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。

また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

1.7①授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	はい
1.7②大学評価室による学生調査結果（新入生アンケート・修了生アンケート）を組織的に利用していますか。	はい
【根拠資料】	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。	

(2) 特色・課題

以下の項目の中で、インスティテュートとして特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、記入をしてください。

【教育課程・教育内容】【教育方法】【学習成果】それぞれの項目の中で「特色」または「課題」を選択し、内容について記入してください。

【教育課程・教育内容】

- ・教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性と連関性の検証
- ・学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供
- ・コースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせた教育の提供
- ・専門分野の高度化に対応した教育内容の提供
- ・大学院教育のグローバル化推進のための取り組み

特色 修士課程・博士課程

大学院教育のグローバル化推進のための取り組み

- ・海外の一流の研究者と共同でコロキウム・ワークショップを複数回実施している。
- ・海外提携(候補)校訪問、説明会実施、SNS も利用した情報発信等のコミュニケーション強化により、海外一流校から質の高い受験生を確保する実績を上げている。

【教育方法】

- ・教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）
- ・授業がシラバスに沿って行われているかの検証（後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）

特色 修士課程・博士課程

授業がシラバスに沿って行われているかの検証（後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。

IIST を構成する教員の所属する理工学研究科では専攻主任会議で、情報科学研究科においては質保証委員会を中心に、それぞれの研究科の措置の実行の検証が定期的に行われている。

【学習成果】

- ・成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用
- ・学位の水準を保つための取り組み
- ・学習成果を把握する取り組み
- ・学習成果を定期的に検証し、その結果をもとにした教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組み

特色 修士課程・博士課程

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。 IISTを構成する教員の所属する理工学研究科では専攻主任会議で、情報科学研究科においては質保証委員会を中心に、それぞれの研究科での適切な運用と検証が定期的に行われている。
その他、上記項目以外でインスティテュートとして「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。
特色
特になし
課題
特になし

## 2 学生の受け入れ

### (1) 点検・評価項目における現状

#### 2.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

2.1①インスティテュートの学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を記入してください。	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。	
2.1②上記のアドミッション・ポリシーには、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえた、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示されていますか。	はい
2.1③上記のアドミッション・ポリシーを公表していますか。	はい
<b>【根拠資料】</b>	
情報科学研究科・理工学研究科で公表された受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）参照。	

#### 2.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

2.2①アドミッション・ポリシーに基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。 IISTを構成する教員の所属する理工学研究科では専攻主任会議で、情報科学研究科においては質保証委員会を中心に、それぞれの研究科での適切な運用と検証が定期的に行われている。	

## 3 教員・教員組織

### (1) 点検・評価項目における現状

#### 3.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

3.1①教員組織の規模について、教育研究上必要となる数の専任教員がいますか。	はい
3.1②専任教員の専門性や、主要科目への配置など、教育を実施するうえでどのような体制をとっていますか。	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。

3.2 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

3.2①教員の募集、採用、昇任等の手続きや運用に関する規程は整備されていますか。	はい
3.2②上記の規定は、公正性、適切性が担保されるよう適切に運用されていますか。	はい
【根拠資料】	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。	

3.3 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

3.3①インスティテュート内のFD活動は組織的に行われていますか。	はい
3.3②上記項目について【はい】と回答した場合は、2022年度のFD活動の実績（開催日・テーマ・参加人数）を記入してください。	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。	
3.3③インスティテュート内において研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	はい
3.3④上記項目で【はい】と回答した場合は、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための取り組みの実績（開催日・テーマ・参加人数等）について記入してください。	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。	

4 学生支援

(1) 特色・課題

以下の項目の中で、 <u>インスティテュートとして特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいもの</u> を選択し、内容について記入をしてください。	
【学生支援】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の能力に応じた補習教育、補充教育</li> <li>・学生の自主的な学習を促進するための支援</li> <li>・学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）への対応</li> <li>・成績不振の学生の状況把握と指導</li> <li>・外国人留学生の修学支援</li> <li>・オンライン教育を行う場合における学生への配慮（相談対応、授業計画の視聴機会の確保等）</li> </ul>	
特色	修士課程・博士課程
外国人留学生の修学支援	
学内外の奨学金紹介、学内TA・RAなどの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させている。	
その他、上記項目以外でインスティテュートとして「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。	
特色	
特になし	
課題	
特になし	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

## III 2022 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	既存の6つの横断的学びのフィールド（Global Information Systems、Ubiquitous Network and Communication Systems、Global Business Analysis and Planning、Media and Information Processing、Medical and Health Care System Design、Advanced Bioscience and Chemical Engineering）を見直し、留学生から学びの需要の高い内容を反映させたフィールドを明示的に設けるなど、再編を行う。	
年度目標	IIST 重点分野であるインテリジェンスロボティクス・データサイエンス分野の受け入れ実績の調査を継続し、両分野における留学生の学びのニーズを調査し、必要な新設科目、専攻横断的な教員の協働等、フィールド新設に向けた準備を進める。	
達成指標	インテリジェントロボティクス、データサイエンスフィールドを構成する専攻横断的な教員組織を確定させる。特に、データサイエンスに関しては潜在的に関連している分野が多いため、それらの関連性を明らかにする。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	インテリジェントロボティクス、データサイエンスフィールドの受け入れ実績を積むために、これらフィールド（今年度は特にデータサイエンス）へ導くためのセミナーを実施（6回実施）した。セミナーによる効果は現れていないが、ワークショップ、シンポジウム辺り発展させ、これらフィールドの開設につなげる。
	改善策	関連セミナーを継続的に実施することとワークショップ、シンポジウムを開催し、これらフィールドに関連する教員学生を増加させ、フィールド開設に向ける。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	IIST に認められた増コマを有効に活用し、英語科目を充実させる。	
年度目標	IIST 設置科目の体系化を検討する。特に、新設を目指す2フィールドのカリキュラムを確定させ、英語科目の充実をはかる。	
達成指標	英語科目を追加できる仕組みの導入により、英語科目の充実度を評価する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	新規専任教員による新しい英語科目が開講し、IIST 主催科目も有効利用されている。また、英語科目を追加できる仕組みの導入により、英語科目は充実した。
	改善策	英語科目を追加できる仕組みを利用して、全専攻に対する英語科目の充実を目指す。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	学習成果を学術論文出版、国際会議研究発表などを通じて示す。	
年度目標	継続して IIST 学生の発表論文リストを作成し学修成果を評価する。また、IIST コロキウムとして IIST 学生の研究成果発表の機会を設ける。	
達成指標	ジャーナル論文・査読付き国際会議発表件数	
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。



年度末報告	理由	これまでに引き続き、研究論文数を調査し、修了者(2022年9月、2023年3月)修了生及び在學生(33名)の公表論文数30件(ジャーナル6件、国際会議24件)と高水準が継続していることを確認した。
	改善策	—
評価基準		学生の受け入れ
中期目標		研究能力レベルの高い学生を受け入れると共に定員を恒常的に確保する。
年度目標		定員充足を達成しつつ、ガイドラインに従い、丁寧な応募前事前マッチングにより優秀な学生を選別し、質の確保をめざす。
達成指標		定員充足率、入学後の研究成果
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	定員については、コロナ禍の収束によって応募者は増加している。また、これまではなかった欧米からの応募者も現れている。定員充足に関しては定員を満たす見通しであり、修士課程から博士課程への内部進学する学生は依然として多く、質の高い学生の確保については達成できている。
	改善策	—
評価基準		教員・教員組織
中期目標		英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やす。
年度目標		IIST担当の任期付き教員の採用により、他IIST教員との連携をはかり、受け入れ可能な留学生数を増加させる。
達成指標		英語による講義・研究指導対応教員数
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	新任専任教員による新たな英語科目の開設と専任教員が主催するIISTセミナーにより、英語による講義は増加している。各専攻主催科目を新しく英語科目にできる仕組みを導入したが、これによって英語科目はそれほど増加していない。
	改善策	博士課程はすべての専攻がIIST学生を指導しているが、修士課程もすべての専攻が指導できるようにして、英語による講義、研究指導対応教員を増加させる。
評価基準		学生支援
中期目標		学内外の奨学金、学内TA、RAなどの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させる。
年度目標		2020年度より実施している修了後進路調査・進路希望調査を充実させ、キャリアセンターと連携し組織的なキャリア支援の仕組みを検討する。
達成指標		進学・就職率
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	終了後進路調査・進路希望調査、新入生(在學生)と修了生との情報交換も行われている。在校生アンケートも行われている。
	改善策	意見交換会やアンケート調査をもとに、キャリアセンターと連携する。
評価基準		社会貢献・社会連携
中期目標		研究成果のグローバルな発信及び優れたグローバル人材を輩出することにより社会貢献を果たす。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

年度目標	教育内容・研究指導を充実させ優れたグローバル人材を輩出する。	
達成指標	刊行・発表論文数、博士進学数 社会のグローバル化を担う人材輩出数	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	2022年度在学学生 33名の発表論文数 30件で質の高い学生を受け入れている。
	改善策	－
【重点目標】 IISTは2016年9月のスーパーグローバル大学院創成支援を受けて設立された。この支援が2023年度で打ち切りになるが、学生の受け入れ、受け入れ学生の学習成果、修了学生の進学・就職状況、国際貢献の観点からそれ以降の存続が認められ、IIST専任教員も認められた。事業継続と自走化のためにこれまでの活動実績と自己点検評価を踏まえて、これまでの活動の総括と新しい施策が本年度の最重点課題である。		
【目標を達成するための施策等】 これまでの活動実績を学生の受け入れ、受け入れ学生の学修成果、修了学生の進学・就職状況、国際貢献の観点から再評価を行い、事業継続と自走化を可能とするための方法を教学・経営面の観点から総合的に検討する。		
【年度目標達成状況総括】 IISTは2023年度にSGU支援は終了されるが、これまでの実績をもとに事業継続が認められ、自走化が可能になった。 2022年度はIISTの学生の受け入れ、受け入れ学生の成果、修了学生の進路、国際貢献に関しては、十分に年度目標を達成した。また、IIST専任の新任教員もうまく機能していた。フィールドの再編と指導教員の増加が残されている。		

#### IV 2023年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	既存の6つの横断的学びのフィールド(Global Information Systems, Ubiquitous Network and Communication Systems, Global Business Analysis and Planning, Media and Information Processing, Medical and Health Care System Design, Advanced Bioscience and Chemical Engineering)を見直し、留学生から学びの需要の高い内容を反映させたフィールドを明示的に設けるなど、再編を行う。
年度目標	今後グローバルにますます重要となるデータサイエンス分野における留学生の学びのニーズを調査し、必要な新設科目、専攻横断的な教員の協働等、フィールド新設に向けた準備を進める。
達成指標	関連するセミナー、ワークショップ、シンポジウム等の開催状況
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	IISTに認められた増コマを有効に活用し、英語科目を充実させる。
年度目標	IIST設置科目の体系化を検討する。特に、新設を目指す2フィールドのカリキュラムを確定させ、英語科目の充実をはかる。
達成指標	英語科目の実施数
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	学習成果を学術論文出版、国際会議研究発表などを通じて示す。
年度目標	継続してIIST学生の発表論文リストを作成し学修成果を評価する。また、IISTコロキウムとしてIIST学生の研究成果発表の機会を設ける。
達成指標	ジャーナル論文・査読付き国際会議発表件数

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。



評価基準	学生の受け入れ
中期目標	研究能力レベルの高い学生を受け入れると共に定員を恒常的に確保する。
年度目標	定員充足を達成しつつ、ガイドラインに従い、丁寧な応募前事前マッチングにより優秀な学生を選別し、質の確保をめざす。
達成指標	定員充足率、入学後の研究成果
評価基準	教員・教員組織
中期目標	英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やす。
年度目標	IIST 担当の任期付き教員と他 IIST 教員との連携をはかり、受け入れ可能な留学生数を増加させる。
達成指標	英語による講義・研究指導対応教員数
評価基準	学生支援
中期目標	学内外の奨学金、学内 TA、RA などの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させる。
年度目標	2020 年度より実施している修了後進路調査・進路希望調査を充実させ、キャリアセンターと連携し組織的なキャリア支援の仕組みを検討する。
達成指標	進学・就職率
評価基準	社会貢献・社会連携
中期目標	研究成果のグローバルな発信及び優れたグローバル人材を輩出することにより社会貢献を果たす。
年度目標	教育内容・研究指導を充実させ優れたグローバル人材を輩出する。
達成指標	刊行・発表論文数、博士進学数 社会のグローバル化を担う人材輩出数
<p>【重点目標】 教育内容・研究指導を充実させ優れたグローバル人材を輩出する</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外提携(候補)校訪問、説明会実施、SNS も利用した情報発信等のコミュニケーション強化による受け入れ学生の質向上</li> <li>・海外の一流の研究者と共同でのコロキウム・ワークショップ等の実施</li> <li>・ジャーナル論文・査読付き国際会議等学外発表、博士進学への動機付け</li> </ul>	

## 【大学評価総評】

IIST では 2016 年 9 月に設立されて以来順調に入学人数が増加し、開設当初から倍増している。また応募者数も増加しており、特に欧米からの応募者が表れていること、内部進学する学生が多いことなど、学生の受け入れについて順調に成果を上げられていることを評価したい。

時代のニーズに沿って、横断的学びのフィールドの見直し、IIST 重点分野とするインテリジェントロボティクス、データサイエンス分野の受け入れ実績の上昇、専攻横断的な教員組織の構築に向けて努力されていることに敬意を表したい。今後の進展が期待される。IIST の Web ページの活用による効果的な広報活動も期待したい。

教育課程・学習成果については、新規専任教員による新しい英語科目の開講、および IIST 主催科目の有効利用とともに、英語科目を追加できる仕組みの導入によって英語科目が充実された点は評価に値する。とはいえ、各専攻主催科目におけるさらなる英語科目の増加は今後の課題でもあり、2023 年度目標にも英語科目の充実が掲げられており、今後の成果を期待したい。学習成果としては、修了生及び在学生の公表論文数が 30 件であったということから、質の高い学生の確保ができていると高く評価できる。

## 【法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況の確認】

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

2023年度自己点検・評価シートに記載された II 自己点検・評価（1）点検・評価項目における現状を 確認	法令要件やその他の基礎的な要 件が充足していることが確認で きた
<法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない項目>	

---

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。